

平成 26 年度協働事業報告会

日時：平成 27 年 3 月 23 日（月）

13：30～15：30

場所：島根県職員会館多目的ホール

本報告会は、各取組の事業成果や、地域課題解決への具体的な取組内容、協働の効果等を報告していただき、事業関係者のみならず、広く一般に取り組みを公開することにより、今後の多様な主体の連携、行政との協働を促進する。

コーディネーター

川北秀人氏（I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表）

1. 主催者あいさつ

2. コーディネーター開始コメント

3. 各事業報告（団体報告 10 分＋質疑 10 分程度） ※事業概要は別添のとおり

（1）障がい者の情報支援機器利活用に関する普及啓発事業
（特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい・島根県特別支援教育課）

（2）楽しい集いと運動による介護予防事業
（自立できるふるさとを創造する会・浜田市高齢障がい課・浜田市社会福祉協議会介護福祉課）

（3）山陰癒やしの森事業
（山陰癒やしの森事業共同体・鳥取県東部振興課・島根県しまね暮らし推進課）

4. コーディネーター総括

事業名 障がい者の情報支援機器利活用に関わる普及啓発事業
 【 特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい ・ 島根県特別支援教育課 】

取組の背景	事業概要	
<p>障がい者就労・放課後児童デイサービス事業を通じてIT支援機器の活用状況はいまだ不十分であると感じている。</p> <p>障がい当事者がより豊かな自立した生活を行うためには指導を行う教職員らへの今後の普及啓発が重要と考え、本事業を提案した。</p>	<p>発展著しいIT支援技術であるが実際の活用についての知識・情報はいまだ十分ではない。教職員・障がい者関連事業者が支援技術の活用について基礎的な研修や体験をすることで障がい児童らのコミュニケーション能力の向上を図り、生活の質向上・職業選択の幅を広げることを目的としたサポートを行える体制作りを行う。</p>	
<p>実施団体と行政それぞれの役割分担</p>		
<p>プロジェクトゆうあい 研修会企画・実働、先進地視察、パンフレット作成 特別支援教育課 取り組みの広報、研修会日程・参加者調整</p>		
主な事業内容	事業の主な成果	工夫・ノウハウ
<ul style="list-style-type: none"> ・島根県内障がい者関連事業所・学校対象のセミナー1回 ・特別支援学校対象個別セミナー3回 ・先進地視察3箇所 ・障がい者支援IT機器・ソフトの購入 ・障がい者ITサポートパンフレット作成 	<p>【研修会・サポート依頼】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナー 参加 41名 ・出雲養護学校 参加 10名 ・松江清心養護学校 参加 22名 ・松江養護学校 参加 17名 ・緑が丘養護学校 参加 5名 <p>※サポート依頼</p> <p>【先進地視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都障害者IT地域支援センター ・大阪府障がい者ITサポートセンター ・ATAC（障がい者の自立生活を助けるIT技術の普及を目的にした全国会議） 	<p>運営する児童デイサービス事業所の児童に対して支援機器・アプリケーションのサポート・学習体験を行った。</p>
今後の活動方針	<p>合同セミナーを定期的に関催（諸費用に関して要検討） 各種機器・アプリをつかったITサポートの広報啓発 継続したIT支援機個別サポートサービスの実施</p>	

楽しい集いと運動での介護予防事業

【 自立できるふるさとを創造する会 ・ 浜田市高齢障がい課 ・ 浜田市社会福祉協議会 】

取組の背景

65歳平均自立期間
 男性 16.63 7位
 女性 19.95 8位
 (県内8市比較)
 介護保険の認定率が8市の中で最も高い。したがって、介護保険料も最も高い。
 雲南市 18.0
 浜田市 23.5
 県平均 20.4
 (平成23年度)

事業概要

健康寿命が他の市町村よりも短いので、幸せの面でも財政的な面でも改善しなければならない。先進地の視察などをしながら知見を高め、閉じこもりや運動不足を防ぐために、手軽で、楽しく、効果的な運動(ユニカール、ポールエクササイズ)の啓発に努めた。
 また、回想法による認知症予防の研究試行を行った。

実施団体と行政それぞれの役割分担

- ・実施団体 ユニカール、ポールエクササイズの募集、運営 回想法の試行
- ・浜田市 健康チェック、測定 公民館会場の優先確保
- ・浜田社協 回想法講演会開催、回想法による認知症予防活動の実施

主な事業内容

- 【視察】
- ・5か所 大田市 美郷町 邑南町 江津市 浜田市井野町社協
- 【参加】
- ・各種ユニカール大会 広島市 31人
 - ・減塩料理教室 浜田市 12人
- 【実施】
- ・ユニカール 原則毎週水曜日 いわみーる
 - ・ポールエクササイズ 6回 月1回 (いずれも、健康チェック実施)
 - ・回想法モデル事業 2回 約31人

事業の主な成果

- 閉じこもりになりやすい寒い日や雨の日などでも、楽しい健康づくりとふれあいの機会をつくることのできた。
- ・参加者は両方とも平均20人弱である。
 - ・市の健康チェックで、健康管理
 - ・資料と情報の共有
 - ・認知症予防の関心を高めた。
 - ・やる気スコア(意欲低下の評価法) 64.7%に意欲の維持、改善が見られた。
 - ・運動に興味があった、どちらかといえばわいた…89.5%

工夫・ノウハウ

- ・ユニカールを導入するため、広島県と連携したので軌道に乗れた。
- ・毎週水曜日の午後、いわみーるの遊休スペースを活用して実施。時間場所を一定にし、頻度を週一回に上げたので良かった。
- ・協会を立ち上げ、役割分担をしたので運営がスムーズになった。市と連携して健康チェックを実施。
- ・市との連携で、ポールエクササイズの定期的な会場確保できた。

今後の活動方針

- ・ユニカールは継続実施しながら、参加者を増し、全県的に広がりのあるものを目指す予定。
- ・ポールエクササイズは月1回を2回にし、会費制で運営する予定。・回想法は社協と協働して実施予定

山陰癒しの森事業

【 山陰癒しの森事業共同体・鳥取県東部振興課・島根県しまね暮らし推進課 】

取組の背景

全国的にもまだ認知度の低い森林セラピーを、山陰にある両基地が連携しながら地域資源を利用したPR活動を行うことで、首都圏という大きなマスをターゲットに、両町の知名度向上、交流人口の増加を目指す。

事業概要

智頭町(鳥取県)と飯南町(島根県)は全国的に知名度が低いため、山陰という広く判り易いイメージでの戦略による広報活動を行うとともに、都市部に住む森林セラピストを確保することで、両町の広報宣伝や人を連れてくる仕組みを構築する。

実施団体と行政それぞれの役割分担

智頭町森林セラピー推進協議会：事業全体の統括、事業の企画運営、会計業務
飯南町森林セラピー推進協議会：事業の企画運営、モニターツアーの企画実施
鳥取県東部振興課：両町間の連携支援、調整
島根県しまね暮らし推進課：両町間の連携支援、調整

主な事業内容

- 都市部に住む森林セラピスト、セラピーガイドの確保による利用者拡大、森林セラピーガイド等のレベルアップ、モニターツアーによる市場調査
- ・セラピスト説明会 8月19日 東京会場
- ・セラピスト説明会 8月20日 大阪会場
- ・モニターツアー（兼ガイド交流会）
9月19日～21日 1回目
10月3日～5日 2回目
- ・合同説明会 1月25日 東京
- 智頭町、飯南町並びに山陰地区の宣伝PR
- ・フライヤー作成 7月
- ・フェイスブック開設 10月
- ・森林セラピーカフェ 11月26日 麴町カフェ
- ・合同企業訪問 2月19日 東京
- ・癒しフェア(予定) 3月28日～29日 大阪
- ・共同ホームページ制作
- モニターツアーやPRイベントの際に、レポート提出やアンケートによるデータ収集を実施

事業の主な成果

- ・説明会、モニターツアー実施など両町の広報宣伝（セラピストのロコミなど波及効果も含めて）により、森林セラピストや産業医、関係者とのつながりを構築
- ・モニターツアーの実施により顧客ニーズの把握や両町の特徴を再確認
- ・モニターツアー参加者と地元ガイドの交流を行い、地域住民と相互理解を図る
- ・森林セラピーカフェを開催し、首都圏在住者の興味関心を高める

【実績】

- 今後、都市部における両町セラピーの広報、周知等を担うことができる人材を確保
- セラピスト説明会参加者：19名（東京7名、大阪12名）
- モニターツアー参加者：16名（うち説明会参加者13名）
- 山陰癒しの森ガイド登録者数：21名（関西圏14名、首都圏7名）

工夫・ノウハウ

- ・「山陰癒しの森」という新たなイメージ戦略を用い、森林セラピー業界のみならず、多方面へ情報発信を行った。
- ・森林セラピーソサエティ職員による視察により、全国の森林セラピーへ先駆性をアピールした。
- ・両町のもつ広報チャンネルを活用することで広報手法が格段に広がり、コストダウンにもつながった。
- ・人脈や地域素材などを両町で相互補完、両町森林セラピーのレベル底上げを図った。
- ・森林セラピストや企業にとっても、山陰というより広いフィールドを活用することができることを売りにした。

今後の活動方針

- ・山陰癒しの森としての更なる印象付け（森林セラピーカフェの実施、特産品の開発・HPによる広報、モニターツアー）
- ・都市部の森林セラピストへの情報提供の方法、誘客の手法検討（周辺地域の素材を使ったプランの組み立てなど）

H 2 6 協働事業報告会 質疑応答要約

「障がい者の情報支援機器利活用に関わる普及啓発事業」 (しまね協働実践事業)

○委員質疑応答

毎熊委員

県教委は具体的に何をしたのか。来年度以降何をするのか
→県教委の組織を利用した研修会の広報。来年度は、団体が活動する際に特別支援学校の専門性向上事業の活用。

南木委員

目的である基盤づくりができたと思う。今後も県の事業等を利用して継続することを聞いて安心した。

泉委員

参加者からの意見・要望への対応は？
→研修での疑問点はその場で対応している。今後は要望によって個別に対応する。

川北コーディネーターコメント

- ・ ICTは目的ではなく手段。ICTによって何が変わるのかがポイント。
- ・ 教員にとって何がどれくらい必要か、5~10年後どう変わるかを共有することが必要。

参加者からのアドバイス

- ・ 行政との協働の効果をよりわかりやすく示す（広報）していくと良いのではないか
- ・ タブレット端末を用いた授業等は全国的にも流行しているようですね。IT、ICTの世界は日進月歩ですので、常に新しい情報をキャッチすることが今後も必要かと思います。
- ・ 重要なのはどれだけ効果的に活用できるのか、だと思います。
- ・ パワーポイント画面がとても見づらい。字を大きくしないと高齢者には読めません。
- ・ 有償にされたのは良いと思います。本来、サービスの提供を受ければ、その対価を払うのは当然なので。

H 2 6 協働事業報告会 質疑応答要約

「楽しい集いと運動での介護予防事業」 (多様な主体との協働推進事業)

○委員質疑応答

- 南木委員 市の関与と今後の支援は？
→毎月の定例会に参加したこと。他団体や他市町の取り組みを紹介したこと。
→講師の派遣、健康チェックに関与。
→今後は、市民への周知、他団体への波及。
他の団体への普及を取り組んでほしい。
- 毎熊委員 若い世代の取り込みは？
→ユニカールは若い世代も受け入れやすいので普及に取り組みたい。
- 井ノ上委員 多様な世代の参加を呼びかけてほしい。
- 藤原委員 今後の維持管理や講師派遣等の経費は？
→(団体)ユニカールは年会費 1,000 円。講師料も会費により負担する。
→(行政)他団体の講師料を支援した事例もあるので同様に対応する。
- 泉委員 回想法でのファシリテーターはどういう人？
→社会福祉協議会が指導員や材料を提供している。
- 天満委員 今後の参加者の目標は？
→今後努力して増やしていきたい。将来的には県内全体に普及させたい。

○川北コーディネーターコメント

- ・ 定量的な効果測定を進めてほしい。体重、血圧、意識の変化、そして、日常生活上できるようになったこと。(介護保険からの脱出)
- ・ 行政側は、健康増進上の効果として何を測りたいのか踏み込んでほしい。

○参加者からのアドバイス

- ・ これから益々高齢化が進む中で大変重要な取り組みであると思う。
- ・ 健康づくり、コミュニティの場→継続できれば素晴らしい。
- ・ より多くの高齢者を巻き込む手段の構築が必要ではないでしょうか。財源確保の手段も考える必要があると思います。
- ・ 引きこもる高齢者を出させるにはどのようにされたのでしょうか？なかなかそういう人を連れて出るのが本当に大変です。
- ・ 三者協働ということで、連携はスムーズにできたのでしょうか。タイムリーな事業、ぜひ継続を。

H 2 6 協働事業報告会 質疑応答要約

「山陰癒やしの森事業」（鳥取・島根広域連携協働事業）

○委員質疑応答

藤原委員

どのように両町の時間、距離を克服したのか。

→インターネットやメールを活用。東京や大阪での出張時に打合せを行った。

毎熊委員

カフェ参加者数（54人）をどう評価しているか？

→会場のキャパシティとしては十分。ターゲットとする客層にダイレクトに訴求できた。町村会職員が連携事例としての視察があった。

セラピストの増加など両町連携による効果は？

→東京からは両町の距離感が変わらないが、関西からは智頭町と飯南町の距離感がずいぶん違う。そうした違いは今後の取り組みの参考になった。

地域資源（温泉、グルメなど）をどう活用したか？

→智頭町と有馬温泉との連携。飯南町では参加者の感想からセラピーロードの改善事業につながった。

西郷委員

森林セラピーの市場規模は？

→メンタルヘルスとしては、全労働者のうちメンタル対象の数百万人の規模。

全国的な優位性は？

→整備されて歩きやすいこと。また、山陰はスピリチュアルな魅力がある。

天満委員

アンケートでの要望や意見は？

→カフェでは前向きな意見が多く、あまり要望が出なかった。

参加者からの情報発信は？

→現在協働でホームページを制作しているので情報発信を検討したい。

→モニターツアーにフリーライターが参加し、情報サイトに掲載された。

○川北コーディネーターコメント

- ・ メンタル向き？観光向き？方向をはっきりさせる。
- ・ メンタル治療の領域だとすると、両町の全国的なポジショニングを明確に。東京から見て、時間や距離が投資に見合うものかどうか。ライバル地と比較して、対象者にとってどういう機能回復ができるか。
- ・ 観光の領域だとすると、ターゲットは団塊の世代。山歩きの他地域と比較した優位性が求められる。ある程度の体力的負荷が必要。

○参加者からのアドバイス

- ・ 森林セラピーと山陰のPRを2県にまたがって連携して実施されていることが素晴らしいと思う。
- ・ 本来はお互いがライバルなのでしょうが、県を越えて「山陰」というくくりでの発想は素晴らしい。ただ、山陰自体マイナーなイメージが付きまとうので、パンチのあるPRが必要かと思います。
- ・ 行政の関わり、さらに深く。
- ・ メンタルヘルスは健康福祉部でも大きな課題です。人口が少ないのに働き盛りの自死がなかなか減らない現状があります。
- ・ 首都圏におけるメンタルヘルスと田舎では原因が違うと思うので、同様なアプローチは使えないかもしれないと思いました。

川北コーディネーターからの総括コメント

- ・ 行政が単独ではできない仮説について、協働事業を通じて検証してほしい。
- ・ これまでの協働実践事業で、市民団体側は多様なチャレンジがあったが、行政側は踏み込みが足りなかったと感じる。
- ・ 15年先（2030年）の未来を見据えた取り組みを求める。